

編集後記

1996年4月、本学開学の入学式の日、京都文教大学人間学研究所の最初の会合が開かれました。研究所の大きな机も椅子も書棚も何もかもが新品で、集まった者も初顔合わせ。活気にあふれ新鮮な雰囲気でした。

その席上、副所長についての話し合いがもたれ、すでに就任しておられた別府春海所長が文化人類学科所属の関係から、臨床心理学科の滝口俊子が副所長を担うことになりました。臨床心理学科の教授の多くが翌年以降の就任であったという事情によります。両学科によって、研究所を盛り立ててゆこうという願いがありました。

初年度は、大学のあちこちに戸惑いや行き違いがありましたが、世界に誇れる研究所を創ってゆこうと、所員一同、希望にあふれていました。所員とは言え、各学科の任務の片手間の活動ではありませんが。

次の年度の初め、大学にとっても研究所にとっても大きな存在であった学長補佐後藤晨次先生が逝去され、学長も大河内良孝先生から現在の学長樋口和彦先生に変わられました。短期間の大きな変化は、人間学研究所にとって動揺をもたらしました。

そんな中で、ここまで研究所が歩んでこられたのは、別府所長の大らかなリーダーシップによります。「別府先生ではなく、別府さんと呼んでほしい」というご提言にも表れているように、親しい関係のもとに研究所を営んでゆこうとされる所長は、温かいリーダーでした。

しかし、広く世界的に活躍してこられた別府さんにとって、歩み始めたばかりの小さな大学では思うようにならないことが多々あられたこととお察ししています。

この紀要第1号は、別府所長が京都文教大学を定年退職される記念の号ともなりましたので、研究所の経緯を、少し情緒的になり過ぎた感もありますが、述べさせていただきます。

人間学研究所のさらなる発展と、親愛なる別府さんのご健康とご活躍とを、こころから祈りつつ、編集後記とさせていただきます。

滝口 俊子

編集委員 別府 春海 滝口 俊子
禹 鐘泰 鈴木 七美
鶴見 太郎 大杉 高司

京都文教大学人間学研究所紀要 創刊号

2000年3月23日 印刷

2000年3月31日 発行

編集・発行 京都文教大学人間学研究所
〒611-0041 宇治市檜島町千足80
☎0774-23-3121

印刷 (株)栄文堂印刷所